

多文化共生のまちづくりにおける 学びのデザイン化拠点の創出

Creating a platform of learning design toward a multicultural local community

研究代表者 宋悟（特定非営利活動法人IKUNO・多文化ふらっと事務局長）

ほんまなほ（COデザインセンター教授）

榎井緑（人間科学研究科附属 未来共創センター特任教授）

研究協力者

〔学内〕高谷幸（人間科学研究科准教授） 高橋綾（COデザインセンター特任講師） 佐伯康考（国際公共政策研究科 特任准教授） 今井貴代子（SSI特任助教）

〔学外〕金和永（NPO法人クロスベイス事務局） 小泉朝未（大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員・一般社団法人HAPS） 栗田拓（NPO法人トイボックス代表理事）

郭辰雄（NPO法人 コリアNGOセンター代表理事） 朴基浩（映像クリエイター）

1. プロジェクト概要

大阪市生野区には、在日韓国・朝鮮人の集住地域があり、日本最大の大阪生野コリアタウンがあります。近年はベトナム人など「ニューカマー」と呼ばれる人びとも急増しており、区民の5人に1人が外国籍住民、その比率は全国の都市部で最も高く（21%）、66か国の国・地域の人びとが暮らしています。経済的に困難を抱える家庭が多く、就学援助率は全国の2倍以上です。外国にルーツのある子どもなど多様な文化的背景を持つ家族の教育・生活面の安定化に向けたしくみづくりが早急に求められています。

こうした課題——多文化共生をまちづくりの軸にすえた総合的・多面的支援拠点の構築——に取り組むために、2019年6月、生野区において、市民主導のプラットフォーム「IKUNO・多文化ふらっと」が発足しました（以下、多文化ふらっと）。SDGs「誰一人取り残さない」をミッションに掲げ、NPOや市民、行政、企業、大学等、多様なアクターが協働し、多文化共生のまちづくりに向けた「拠点づくり」「多文化イベント」「調査・提言」という3つのプロジェクトが取り組まれています。「拠点づくり」プロジェクトでは、小学校跡地活用計画（案）が策定されたのを受け、市民主体の多文化共生センターを設立しようと準備が進められています。

本プロジェクトは、生野で進められている多文化共生のまちづくりに向けた「拠点づくり」に、地域と大学が連携して取り組んでいくとするものです。たとえば、学びの協働プロジェクトやプログラム開発、コミュニティづくり、教育コンソーシアムの発足など、学びのデザイン化を進めていきます。

共生とは、つねにすでに、わたしたちによって生きられてきた時間と身体そのものです。

生野というさまざまなかたちで共生が育まれてきた歴史と風土こそ、一人ひとり異なる背景が描かれてゆく地平として学びのキャンパスが真に根を張る土壤となるでしょう。合理化や競争のなかで人びとが分断される時代において、本来あるべき教育のすがたを、未来ではなくいまを生きる子どもたちとともに、この地でとりもどす。そのために、わたしたちにのしかかる力をほどこし、〈ちがひ〉を意識化することで縫いあわされる〈つながり〉の糸でわたしたちの知を編み直すための、さまざまなジャンルを横断する対話と創造活動を繰り広げます。

2. 2020年の取り組みと成果

本プロジェクトは、2020年9月に発足しました。本年度は主にプロジェクト立ち上げのための関係構築、体制整備、次年度以降の準備を行いました。学内外のメンバーで構成され、地域を拠点としたプロジェクトであるため、それぞれの立場や状況、課題のすり合わせ、信頼関係の構築を何より重視しました。対面・オンライン併用の会議を3回開催すると同時に、以下の取り組みを通じて大学と地域のプラットフォームの土台づ



セミナー「学校跡地からみんなの地域キャンパスへ」の様子

多様な文化的背景を持つ家族の 安定した教育・生活の実現に向けて

くりに取り組みました。

関連セミナー「学校からみんなの地域キャンパスへ」(多文化ふらっと主催・SSI協力)を10月に開催しました。地域の人びとが集まり、大学も混ざり合いながら、生野の魅力は何か、どのような学びや地域キャンパスが求められているか、学校跡地に期待すること等、さまざまな意見やアイデアが出されました。在日コリアンの人びとや近年はベトナムの人びと、また国籍に限らないさまざまな背景をもつ人びとが共に生きてきた生野の歴史や文化風土、またその地で育つ子どもたちへの教育実践等が、地域の宝として過去から現在へと脈々と受け継がれていることを確認し、プロジェクトのキックオフを行いました。

大学生と地域との接点を生み出す教育活動としては、大学授業へのゲスト講義、コリアタウン・フィールドワーク、生野区内のまち歩き等を通して、地域資源や課題の共有・発見などを行いました(COデザインセンター授業科目「マイノリティ・ワークショップ」「マイノリティ・セミナー」「総合術COデザインプロジェクト」、人間科学研究科授業科目「コンフリクトと共生の諸課題」等)。大阪という身近であるはずの地域の歴史や取組、現状を知らない学生が多く、学生と地域が出会う持続可能なしくみづくりが求められています。2021年2月に授業の一環で学生企画による地域住民との対話に関する報告会を、3月には“多様性”をかんがえるフォーラム(COデザインセンター・多文化ふらっと共同主催・SSI協力)を開催します。それらを土台に次年度以降、協働セミナーや創造活動などを継続的に実施していく予定です。

フィールドでの調査・研究は、コロナ禍もあり十分に進みませんでした。多様な背景をもつ子ども・若者たちの教育と生活の課題抽出、それらをふまえての学びの保障のあり方について検討を行いました。生野区では、少子高齢化、小学校統廃合、貧困家庭や多文化家庭の抱える課題などが山積しています。特にニューカマーの子どもの高校進学ハードルは依然として高く、入った後のサポートが十分でないという実態が



生野まちあるき

第3回 IKUJO・多文化ふらっと公開セミナー

「外国ルーツの子どもたちを支える」
— 大阪市の西成・『ミナミ』・生野の市民活動の現場から見えてきたもの

外国ルーツの子どもたちを支える「ミナミ」・生野は外国ルーツの子どもたちの増加が顕著です。コロナ禍以降はさらに増え、地域社会で育つ外国ルーツの子どもたちを支えることが求められています。外国ルーツの子どもたちを支えるためには、地域社会で育つ外国ルーツの子どもたちを支えることが求められています。外国ルーツの子どもたちを支えるためには、地域社会で育つ外国ルーツの子どもたちを支えることが求められています。

2/23 (火・金)
14:00~16:00

コーディネーター
高谷 幸 (大阪大学大学院人間科学研究科准教授)

パネリスト
庄保 共子ちゃん (在日NPO法人こどもの国際事務局)
原めぐみさん (生野区立東成南小学校教員/Minamiこども教育実行委員)
金和永 さん (NPO法人クロスレイズ学芸部コーディネーター)

会場 大阪聖和教会 (生野区南谷5丁目10-32)

参加費: 無料
定員: 会場定員(新型コロナウイルスの感染防止のため) ※申込
申し込み: オンライン配信 (当日配信) ※申込
申し込み: 申し込み
申し込み: 申し込み

お問い合わせ・お申し込み先
NPO法人 IKUJO・多文化ふらっと (NPO法人クロスレイズ事務局内)
TEL: 06-6544-1111 FAX: 06-6544-1112 E-mail: ikujofl@npo.or.jp

セミナー

「外国ルーツの子どもたちを支える」のチラシ

見受けられます。2021年2月に、関連セミナー「外国ルーツの子どもたちを支える—大阪市の西成・『ミナミ』・生野の市民活動の現場から見えてきたもの」(多文化ふらっと主催・SSI協力)を開催し、次年度も継続的な議論を重ね、いまを生きる子ども・若者たちとともに学び合う具体的なプログラムに取り組んでいきたいと思っています。

3. プロジェクトの今後

前年度に引き続き、「顔の見える関係」を大事にして、活動の安定化に取り組みます。プロジェクトの広報や発信にも力を入れ、学内外や地域で賛同者を増やし、ネットワークを広げていくことを目指します。



ミーティングの様子